

教育専門部会長

著者	井田 正道
雑誌名	明治大学情報科学センター年報
巻	15
ページ	4-4
発行年	2003-11-01
URL	http://hdl.handle.net/10291/4298

【教育専門部会長所見】

井田正道

2002年4月に教育専門部会長に就任してはや1年半が経過した。最初の数ヶ月はスタッフ会議での議論についていけなかったが、次第に私の担当する教育関係だけは何とか理解できるようになっていった。10年前の情報教育は、キーボードの打ち方もわからない学生にイロハから教えていくというものであったが、昨今ではコンピュータ技術に熟達した学生も多く、大学の情報教育のあり方も再考を迫られていることはいままでもない。本学でもここ数年、情報基礎論の履修率が低下傾向にあるが、その一因にコンピュータを使えるようになってきている新入生の割合の増加を指摘することは要因である。

また、高校において情報教育が必修科目となつてからの新入生が2006年度から入学してくることもあり、本学の情報教育のあり方もこれからほぼ毎年のように検討していかなければならない。とりあえず、2003年10月に行われた情報教育担当者懇談会では高校の「情報」科目の教科書についての報告を行ってもらった。

加えて、2004年度から本学の学部組織が大きく変わる。短大・二部の廃止、情報コミュニケーション学部の新設なども情報教育のコマ数に影響を与える。2004年度のコマ総数はさほど影響がないと判断したが、これも2004年度の履修状況などを見たらうえで判断する必要がある。

また、2003年度から全学的にTA制度が導入され、情報教育も例外ではない。しかし、従来の助手補に代わってTA制度を導入するとなると、いくつかの問題点が生じてくる。そのうち最も大きな問題点は、週12時間以内の勤務に限定されているTA制度ではリーダー制が維持できないという問題点であった、そこで、TAとは別に特別嘱託を採用し、助手補と合わせてリーダー制を維持している。今後もリーダー制は維持していきたいと考えている。

情報教育は大学教育の中でも最も状況変化にフレキシブルに対応しなければならない分野であり、今後も試行錯誤を繰り返しながら時代に対応していくことが求められている。